

熱間鍛造専門の特徴活かす

ミヤジマ 東名鍛工 宮嶋俊介社長

ミヤジマグループは、アプセット鍛造及びシヤフト鍛造における小物量製品の東名鍛工(株)(静岡市清水区渋川3-12-10)と、中・大型の小ロット品を得意とする(株)ミヤジマ(滋賀県犬上郡多賀町多賀1008番地)の二つの専門企業から構成されている。熱間鍛造分野での更なる「最高の品質」「最強の価格」「最短の納期」を併せて実現させ、多彩なニーズに対して専門性の追求に基づいた取り組みを推進し、日本のモノづくりに貢献する企業活動を積極的に展開している。

本号では、2016年から東名鍛工の代表者を務め、2021年にはミ

ヤジマの四代目社長に就任なされ、グループ企業2社の舵取りに辣腕を振るい、着実な企業運営と、実績を積み重ねている宮嶋俊介氏を本社(ミヤジマ)に尋ね、語って頂いた今後の方向性や主な経歴を紹介いたします。

同氏は1972年(昭和47年)6月16日生まれ。大手通信会社に6年間勤め、商人の道を極めたいと考え、約三年間にわたって大阪アメリカ村界隈において幾つもの職種に携わり貴重な経験を果たす。その後、父(宮嶋公夫氏・二代目社長)から家業のサポートを打診され、同業者での半年間の修業を経て、2003年にミヤジマに入社。

製造現場において同社のモノづくりを習得するなかで、営業主任、事務部門の統括、2011年には常務取締役就任などの役職を歴任する。

2015年には、約半世紀の社歴を有する東名アプセット鍛造及びシヤフト鍛造のミヤジマグループが誕生。翌年の2016年に新生・東名鍛工となった同社の初代社長に就任し、ミヤジマの実兄宮嶋誠一郎社長が代表取締役会長を務める。

東名鍛工の製造現場の再構築に向け、自らが率先して取り組み姿勢のもとに様々な見直し並びに改善等を実行し、以前よりも数段上昇したモノづく

り以下の要旨で語る。
「会長が約20年間にわたり築いてきた業績は大きく、私も傍でお手伝いをさせて頂き、その経験は何事にも変えることができません。東名鍛工の運営に役立ちました。ただ、社会環境の変化などを要因に次の世代の経営感覚が必要との思いからバトンをタッチしたと受け止めており、これは厳しい規制下で私生活や仕事も一変し、多様化で従来の方法が通用しない場合もみられ、時期的なことも重なって一つの区切りだったのかも知れません。
今後、企業として如何に活性化と代謝を図っていきけるかが大切で、その中心的な役割は若手が担っていかねばならず、そ

の方法の選択と進め方も重要であります。極端に変えてしまうと混乱を招く恐れがみられ、その加減を上手く調整して円滑に運ぶようにするのが私の役目であると考えております。ケースバイケース、柔軟対応などが浮かびますが、時には退路を断って臨まなければならぬ場合も考えられ、私も含めてのチームワーク、全社一丸となって突き進んで参ります」。

ミヤジマグループでは生産の二拠点化によるBCP対策の確立で一層の信頼性の提供に加え、両社が一つになることでの対応力の強化などと、アプセット鍛造の分野で日本のモノづくりに貢献していく方向である。



宮嶋俊介社長

大阪府から感謝状

ヤハタ会 子ども達の未来へ社会貢献

(株)ヤハタ(大阪府八尾市。米田正社長)の主要仕入先で構成するヤハタ会(辻本康則会長・金剛鉸(株)社長)は先般、同会結成10年の節目を記念して、大阪府の「子ども輝く未来基金」へ100万円の寄付を行った。去る4月25日には、辻本会長が大阪市中央区の大阪府庁舎を訪問して海老原諭副知事よりの感謝状が贈呈された。

同会では、本紙第2612号(2023年4月7日付)既報の通り、3



感謝状

きる内容で考え、特に未来の子ども達のために何かできないかという方向性で決定しました。また、この内容はヤハタ様が推進されるSDGs17項目のうちの「貧困をなくす」にも該当し

ありがとうございます
since 1964
60周年

おかげさまで
創業60年、
この先もずっと、
お客様と共に...

サンコーテクノ株式会社